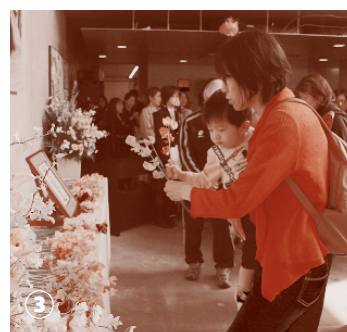


新美南吉記念館だより

NIIMI NANKICHI MEMORIAL MUSEUM NEWS

発行 新美南吉記念館 〒475・0966 愛知県半田市岩滑西町1・10・1 Tel. 0569・26・4888 <http://www.nankichi.gr.jp>



半 田市では新美南吉の命日である三月二十二日を「貝殻忌」と名付け、毎年様々な記念行事を行っています。今年三月二十一日(木・祝)〜二十四日(日)の四日間にかけて、南吉を偲ぶ行事を開催しました。

二十二日(金)は記念館を無料開放し、「貝殻忌」式典を行って多くの方に来館していただきました。式典では「貝殻忌」の由来で



新美南吉没後 76 年

「貝殻忌」式典・記念行事開催

- ①「貝殻」を歌うつばさ幼稚園の園児たち
- ②詩「貝殻」の朗読(南吉童話お話の会でんでんむし)
- ③式典参加者による献花

ある南吉の詩「貝殻」を、「南吉童話お話の会でんでんむし」の竹内照子さんに朗読していただいたほか、地元卒園したばかりの子どもたちも元気な歌を披露してもらいました。歌ってもらったのは「大のおまわりさん」と「貝殻」で、どちらも昨年亡くなられた大中原さんの作曲によるものです。さらに歌の前には、参加者全員で献花も行いました。平成最後の式典は天気にも恵まれ、花に囲まれた和やかなものになりました。

また、二十一日に行った「貝殻忌講演会」では、絵本編集者の末盛千枝子さんを講師にお招きして、大変好評を得ました(詳細は次頁へ)。そのほかにも、期間中は南吉作品を音楽や講演で楽しめるイベントを開催し、全日南吉クイズを行うなど、小さな子どもから年配の方まで、南吉の世界に親しむとともに偲んでいただけたと思います。

記念館ではこれからも、令和の世に南吉顕彰の火を繋いでいけるよう、力を尽くして参ります。

貝殻忌
講演会

「人生に大切なことはすべて絵本から教わった」

三月二十一日（祝・木）、雁宿ホール講堂で、末盛千枝子さんを講師にお招きして貝殻忌講演会を開催しました。

末

盛さんは絵本編集者として活躍し、皇后美智子さまとも親交の深い方です。一九九八年にIBBY（国際児童図書評議会）の世界大会で、皇后さまがビデオ講演をされた際にも尽力され、

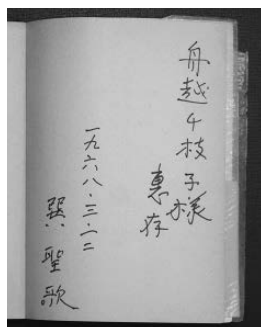
ご自身が代表を務めるすえもりブックスから、講演録『橋をかける』を出版されました。二〇〇二年から六年にかけて、IBBYの国際理事を務められた後、二〇一〇年に岩手県へと移住。下半身不随のご長男と



暮らしながら、編集や執筆活動を行われていました。が、翌年東日本大震災に遭われて、被災地の子どもたちへ絵本を届ける「3・11絵本プロジェクトいわて」を立ち上げられました。今回の講演では、末盛さんが皇后さまからお聴きになった南吉の「でんでんむしのかなしみ」にまつわる話や、様々な絵本との出会い、人との縁についてお話しいただきました。その内容を一部ご紹介いたします。

● 異聖歌の思い出

絵本出版社の至光社に勤めていた時、異聖歌さんにお会いすることがよくありました。もう髪の毛が真っ白で、本当に好々爺（こうこうや）という感じのおじいさんでいらつしゃいました。ある時、出たばかりの『牛をつないだ樁の木』という文庫本にサインをして、私にくださいました（右下写真）。一九六八年のことですから、ずいぶん大昔の話ですね。



詩人の異さんが、「こうやって人のことばかりかまけているから、自分の仕事ができないんだよね」と自嘲的におっしゃったので、びっくりして、なんと返事をしていたのかわからなかったのを覚えています。

ですが今になって、異さんが新美南吉さんのことを世の中に忘れられないように、本当に心をこめて努力していらしたことが、とてもよくわかりました。

● 皇后さまと「でんでんむしのかなしみ」

私が「でんでんむしのかなしみ」の話を知ったのは、葉山の御用邸で静養していた皇后さまを、友だちの島多代（しまたよ）さんとお訪ねした時のことです。当時、皇后さまはバッシングによるストレスでお声を失われていて、私は精神科医やカウンセラーの助けを借りること

は出来ないのですかと申し上げてしまいました。それに対して皇后さまは、自分の心の中にあるものをすべて出さないといけないから、それはできないのだと、微かに聞こえるようなお声でお話されました。

そして、南吉の「でんでんむしのかなしみ」のお話をしてくださったのですが、私はその時、この方はこんなに大変な状況を、小さい時にお聞きになったお話で乗り越えようとしていらつしやるんだ、と驚いた記憶があります。

その数年後、インドのニューデリーでIBBYの世界大会があり、皇后さまがVTRを通して基調講演をされました。冒頭に、子ども時代の読書の思い出として「でんでんむしのかなしみ」が出てきます。私は亡くなった夫がNHKの間でしたので、当時侍従長だった渡辺允（わたなべのり）さんから、NHKへ講演を収録してもらえよう頼んでくれないかと言われて、いろいろ橋渡しをいたしました。

その際ディレクターの方から電話があり、原稿の中

で、皇后さまは「でんでんむしのかなしみ」を三歳か四歳の時にお聞きになったと書かれているけど、当時はまだ出版されていなかったはずなので、皇后さまにそのことを確かめて欲しいといわれました。

「でんでんむしのかなしみ」は講演の基調としてお話になろうとしていましたから、出版時期が違うとなると大変です。それで皇后さまにファックスを差し上げて、気休めに「南吉の出身地の知多半島にこういう昔話があるかもしれませんね」と書いて送りましたら、すぐにお返事がありました。皇后さまは天皇陛下下にもご相談になられたようで、陛下は「このお話は人間の自我の問題を扱ったお話だから、日本のいわゆる昔話にはないと思う」とおっしゃったんだそうです。そして出版された時期と、南吉が書いた時期との間に差があるかもしれないから、それを調べてみるようにともおっしゃられて、皇后さまのお話に齟齬（そご）がなかったということがわかったのです。

●橋をかける

ご講演の収録に立ち会った時、私はあまりにも素晴らしいお話でしたので、これはインドに集まる人たちだけでなく、日本の人にも聞いてもらいたいと思います。結局、現地での上映が終わった後に日本の各局でも放送されましたが、私はインドから帰ってきて皇后さまにご報告に伺ったとき、講演内容を本にさせていただきますと申し上げることにしました。そうしてできたのが『橋をかける』です。

表紙

には安野光雅さんが麦の穂を描いてくださいます。



した。皇后さまのお話が、麦の穂を風が渡っていくように爽やかだったと感じられたのだそうです。

『橋をかける』は今文芸春秋から出ています。私が見てもブリックスをやめる時、皇后さまのご本だけは絶版にするわけにはいかないと思います。

たく形を変えずに出してくれるという約束で引き受けて下さいました。本当にありがとうございました。

●絵本を届ける

岩手へ引越した次の年に震災に遭いました。私の息子二人は、六歳と八歳だった時に父親に突然死されています。ですから、その時の子どもたちの有り様を思い出して、津波にあった子どもたちが、どんなに悲しい思いをしているだろうかと思いました。あなた

たちのことを考えている人がたくさんいると思います。

を、何とかして伝えたいと考えていたら、次男から電話がかかってきて、「母さんそれ、絵本だろ」といわれて、絵本を子どもたちに届けますから送ってください、というメールを全ての知り合いに送ったのです。それで盛岡の中央公民館を拠点にしたところ、一

三週間で二十三万冊の絵本が届きました。毎日段ボールが宅急便で二百も三百も届くんですね。日本中の人たちが「こういうときにこんなにも絵本だと思ってくれるのだ」と、すごく嬉しく感じました。

皇后さまもご自分の手元にある本を少しずつ送ろうかしらといってください、最初はお手元に二冊ずつあった『龍の子太郎』（松谷みよ子）と『三月ひなのつき』（石井桃子）を、それから順次絵本を送ってください。最後に『新美南吉全集』も送ってくださいました。その時、「でんでんむしのかなしみ」の他に、この中にすごく好きなお話があるのといわれて、「子どもの好きな神さま」をあげられていたのを覚えています。

また、出版社へ「返品になったものでいいですから少しわけていただけませんか」と連絡したら、偕成社の今の社長さんが、「返品になったものをそういう風には使いませんから、新しいものを送ります」と、すごくたくさん本を送ってくださいました。

●まとめ

私が父の郷里の先輩である巽さんにお会いしたことや、巽さんが南吉の本が出るように気にかけて、皇后さまに『墓碑銘』を贈られたことなど、人と人との出会いは、いろんなことが複雑にからみあっているなと思います。私は盛岡での知り合いが、小学一年生から五年生まで疎開していた時の同級生と、いとこしかいませんでした。それが震災が起こったことにより「3・11絵本プロジェクトいわて」を立ち上げ、たくさんの方々が出来ました。皇后さまのインドでの講演も、インドが核実験をせず現地にいらつしやることであれば、大きなニュースにはなっても各局で放送されることはなかったでしょうし、その時上手くいかなくても、物事というのは不思議な展開をしていくことがあると思います。

3・11のすぐ後、ロンドンであったIBBYの大会で、「花は咲く」の歌を英語のテロップをつけてみんなに見てもらいました。出席した人たちが泣きながら

出てきて、たくさんの人たちハグをされたのですが、それぞれがいろんな困難を抱えて生きているのだと思いますし、それは「でんでんむしのかなしみ」にも共通していることです。私も、自分だけが大変なわけじゃないと思えば、生きていくことができるのだというように思っています。

＊

末盛さんにお伺いしました。――本を作る上で大切にしてくださいことを教えてください。

希望を語る言葉が好きなので、そういったものが根底にあるようなものが良いですね。「子ども向けだったらこの程度でいい」なんてことも絶対になしにしたいと思ってきました。

――希望というとハッピーエンドのような？

必ずしもそうとは限りませんよね。将来に希望が続くということもありますし、ハッピーエンドでなければ成り立たないなら、人生は難しいと思います。

ですが、私たちが生きている今は、類人猿の時代から一度も途切れずに続いてきた命です。今生きている

人よりも、死んだ人の方がずっとずっと多いわけです。にもかかわらず、希望を持って生きるといえるのはどういうことなのか、という哲学的な課題が最近私の中にはあって、考えています。まだそれをどういう風に落ち着けなければいいのかもわからないのですが。

――その哲学は今後の活動の中で出ていくということがあるのでしょうか？

いえ、それは私には時間切れじゃないでしょうか。人に投げかけることはできるけど、自分の中で答えを見つけるのは難しいだろうなと思っています。

私の長男は難病を持って生まれて、途中で怪我を負い車椅子の生活になりました。あの子の人生って一体何なんだろう、彼はどう

思っているんだろうと、改めて話し合ったことはありません。ただ私は希望を語る言葉を集めるのが好きで、だからこそ彼とずっと付き合ってたし、彼の運命を私の運命として受け入れてこれたと思っていきます。それは私にとって、すごく大事なことです。

でんでんむしを丸太から

二月二十八日（木）、半田工業高校土木科の生徒たちが、でんでんむしの顔出し彫刻を寄贈してくれました（左写真）。

彫刻は工業高校の課題制作としてチェーンソーアトで作られたものです。昨年五月から、土木科三年生の生徒九人が制作に取り組んできました。

直径四十五センチ、高さ一メートル十センチの杉の丸太から削り出されていて、近づくほどほのかに木の香りがします。グラインダーで磨き、仕上げはやすりとニスで行いました。また、デザインのモチーフとして選ばれたでんでんむしの殻には穴が開けられ、そこから顔を出すことができます。今回でんでんむしをモ



チーフにしたのは、「ごんぎつね」以外にも、「でんでんむしのかなしみ」など南吉の作品はたくさんあるということをアピールするためなのとか。木の感触を味わってもらうために、普通ならパネルで作るところをあえて立体にしているのもポイントだそうです。

制作にあたっての苦勞を尋ねると、「最初はチェンソーという危ない道具を使うのが怖かった」という声や、「丸太から削り出していくので、完成するまで形が分かりにくく不安だった」とか、「顔出しの部分切り抜くのが難しかった」といった感想を聞かせてくれました。

このでんでんむしの立体顔出し彫刻は、記念館の図書室に設置しています。図書室に入るだけでしたら無料で利用していただけますので、お立ち寄りの際にはぜひ写真を撮ってみてはいかがでしょうか。

刊行物紹介

毎年記念館では、南吉研究の成果や新資料の発表、講演録などをまとめた『研究紀要』を出しています。最新ナンバーの第二十五号は三月に発行しました。



注目は二つの新資料紹介です。今回、南吉が学生時代に幼年童話を寄稿していた雑誌が新たに九冊発見されたため、掲載作品目録の補遺を作成しました。その中には南吉の幼年童話「ウラレテ イツタ クツ」もあります。また南吉の中学生時代からの友人、稲生稔彦さんの手記から南吉に関する記述を紹介し、二人の交友関係を追いました。巻末には南吉の詩に稲生さんが曲をつけた楽譜も掲載しています。

お求めの方は記念館まで。通信販売も行っています（詳しくは当館HPをご覧ください）。

記念館からのお知らせ



正八ちゃん端午の節句／5月4日、5日

子どもの日は、家族みんなで楽しめるイベントが盛りだくさん。正八ちゃん(南吉の本色)になったつもりで楽しもう！



5月4日(祝・土)

南吉ジャンボかるた

安城市でつくられた南吉かるたのジャンボ版を使い、かるた取りをします。

時間 ①10時30分～12時

②13時～14時30分

場所 南吉記念館屋外

南吉童謡とお手玉遊び

南吉の童謡を歌ったり、数え歌を歌いながらお手玉遊びをします。



出演 AMI
時間 13時30分～14時30分
会場 南吉記念館図書室

5月5日(祝・日)

紙でできた本物そっくりのよろいを着てみよう



時間 ①10時～12時

②13時～15時

協力 手づくりよろいの会

会場 南吉記念館会議室

対象 年少園児～大人

石川恵^{えみ}深^{ふか}の南吉ワールド

南吉の詩や童謡を、マジックや演技をまじえて朗読します。

時間 13時30分～14時
出演 石川恵深(女優)
会場 南吉記念館図書室

両日開催

ごん吉くんの

謎解きクイズラリー

クイズに答えてプレゼントをもらっちゃおう！

時間 9時30分～17時

場所 南吉記念館内

対象 中学生以下

ギャラリートーク&

似顔絵サービス

イラストレーター¹の山本

正子さんが、企画展会場で絵についてお話したり、似顔絵を描いてくれます。

※詳細は記念館HPやチラシでご確認ください

*

童話創作講座

童話の書き方についての講座です。自作童話の講評を受けることができ、その作品を新美南吉童話賞に応募することができます。

日時 ①5月26日(日) 10時～12時／②6月30日(日) 10時～13時

場所 南吉記念館会議室
対象 中学生以上
定員 20名(先着順)

講師 高橋一元氏(東海学園大学文学部教授)
受講料 1000円(2回分)
申込み 現在受付中

山本正子 心の南吉を描く

「手袋を買いに」絵本原画展

山本正子さんが描く心の南吉の世界を、絵本「手袋を買いに」の原画を中心にご紹介します。

会期 6月30日(日)まで
場所 南吉記念館展示室

日誌抄・

二月(如月)

▽2日 ミュージアムトーク。6名参加▽16日 ミュージアムトーク。5名参加▽17日 文学講座第一回「南吉の中学生日記を読む」。25名参加▽同日 企画展「南吉の中学生日記」終了。期間中観覧者数8545人▽23日 企画展「榊原澄香ペーパーアート展」始まる(4月21日)▽同日 第30回新美南吉童話賞表彰式開催▽24日 第163回新美南吉読書会。17名参加▽25日 故榊原幸宏氏の遺族から半田市へ300万円の寄付を受ける

三月(弥生)

▽2日 ペーパーアート教室。15名参加▽3日 第二回文学講座「南吉童話の光と闇」。38名参加▽17日 第三回文学講座「南吉文学散歩」大野・小鈴谷・河和。33名参加▽21日 貝殻忌講演会「人生に大切なことはすべて絵本から教わった」。248名参加▽同日 貝殻忌づくり。62名参加▽同日「AMI南吉を歌う」。18名参加▽22日 貝殻忌式典。375名参加▽同日「南吉童話の紙芝居」。155名参加▽同日 蓄音機コンサート。28名参加▽23日 蓄音機コンサート。26名参加▽同日「こどものとなり」貝殻忌朗読コンサート。62名参加▽同日 貝殻忌ウォーク。11名参加▽24日「南吉講談席」。26名参加▽同日 歌とお話の会。15名参加▽同日 第164回新美南吉読書会。23名参加▽21日 南吉クイズ。707名参加▽30日 NHKドキュメンタリー「天皇運命の物語」第4話「皇后美智子様」で「でんでんむしのかなしみ」が取り上げられる

今年も6月1日(土)から新美南吉童話賞の募集を開始します。多くの方からのご応募をお待ちしています。

【募集部門】

部 門	様 式	枚 数
自由創作部門	一般の部（高校生以上）	400字詰原稿用紙 7枚以内
	中学生の部	// 5枚以内
	小学生高学年の部（4年生以上）	// 5枚以内
	小学生低学年の部	// 3枚以内
新美南吉オマージュ部門	小学生～一般	// 7枚以内

【応募規定】

- 日本語で書かれた童話を創作してください。自作未発表で、他の創作童話賞へ応募していないものに限りです。※自由創作部門と新美南吉オマージュ部門それぞれに別作品を応募、受賞することもできます。
- 原稿は必ず縦書きで、濃い筆記用具を使用してください。（パソコンの場合は1枚20行×20字で印刷）※原稿用紙には、題名（欄外でも可）と本文のみ書いてください。
- 部門名（オマージュ部門の場合は選んだ作品名も）、題名、郵便番号、住所、氏名（学生の場合は保護者名も）、年齢（学生の場合は学校名・学年も）、電話番号（携帯電話でも可）を記載したA4判の紙を1作品につき1枚添えてください。※応募票は新美南吉記念館のHPからダウンロードすることもできます。
- 応募作品の返却はいたしません。入選作品の著作権は半田市教育委員会に帰属するものとします。

自由創作部門

テーマは自由です。
上記の応募規定をよく確認
のうえ、ご応募
ください。



新美南吉オマージュ部門

オマージュとは「尊敬・敬意・賞賛」という意味のフランス語です。この部門は、新美南吉の作品に通じるテーマで、新たに童話を創作するというものです。今回の課題は「**ごんぎつね**」「**花のき村と盗人たち**」「**大力の黒牛と貨物列車の話（百牛物語より）**」。これらのうち1作品を選び、単なる物語の続きやパロディではなく新しい童話を創作してください。※課題作品の作中人物を登場させる必要はありません。時代、舞台、動物と人間という関係や登場人物同士の関係など、原作にとらわれず自由に設定してください。課題作品はホームページでも読むことができます。

【応募期間】 令和元年6月1日(土)～9月15日(日)

※当日の消印有効。海外から発送したものは当日必着。

【賞 金】 最優秀賞…1編 賞金50万円 ※両部門を対象に選考します。オマージュ部門より最優秀賞を受賞した場合、ダブル受賞となりますが賞金の重複はありません（最大賞金額50万円）。自由創作部門／優秀賞…一般の部2編 賞金5万円、その他の部各1編 賞品3万円 ほか 新美南吉オマージュ部門／大賞1編 10万円、優秀賞5万円 ほか

【発 表】 令和元年11月下旬予定（入選者のみに連絡）

※HPでは、受賞者と併せて一次審査通過者も氏名または筆名と都道府県を発表します。

【応募／問合せ先】 新美南吉記念館 新美南吉童話賞係

〒475-0966 愛知県半田市岩滑西町1-10-1

☎0569-26-4888 <http://www.nankichi.gr.jp>

応募作品は郵送または持参してください。

- 審査員 藤田のぼる（児童文学評論家）、酒井晶代（児童文学研究者）、
富安陽子（児童文学作家）、山本悦子（児童文学作家）、
知多管内小中学校教諭ほか

主 催 半田市教育委員会

共 催 新美南吉顕彰会、公益社団法人半田青年会議所

後 援 文化庁、愛知県教育委員会、安城市教育委員会、中日新聞社

協 賛 ミツカングループ、知多信用金庫、半田信用金庫

南吉記念館に直接作品
を持ってきていただい
た方には、オリジナル
ごん吉くん
消しゴム
をプレゼ
ント！

